

ほうでえ～

ありゃ～のう

# 周防大島町の話題



▲県内各地から320人が一堂に会し幅広い分野の研修が行われました。

▲志津里さんは震災から約1カ月の体験を詳しく説明。事前に高い所へ逃げることを決めておくことや先人の教えを守ること、また3日間生き延びるだけの備えをしておくことが必要であることなどを説明されました。

## 防災や定住を学ぶ 婦人会リーダー研修会

6月15日、山口県連合婦人会主催による、平成29年度地域婦人会リーダー相互研修会が、大島文化センターを主会場に行われ、県内各地の婦人会役員ら320人が参加しました。  
この研修会が周防大島町で開催されるのは初めてのことです。研修会ではまず、久賀にお住まいの志津里芳一さんを講師に迎え、岩手県釜石市に在居中に体験した、東日本大震災で学んだことについての講演が行われました。続いて午後からは、4つの分科会に別れ研修を行い、日本ハワイ移民資料館ではハワイ移民の歴史について、大島文化センターでは移住・起業された方々の体験談や、体験交流型観光の取り組みでの民泊受け入れの話などが紹介され、さらには大島商船高専の練習船大島丸での体験航海も行われるなど、参加された皆さんは周防大島町ならではの研修で、充実した一日を過ごされました。

## 早く大きくなってね

6月2日、陸奥海水浴場においてカサゴの稚魚の放流が行われました。これは、町の助成を受けて行う稚魚の中間育成を、山口県漁業協同組合東和町支店から委託を受けた、なぎさ水族館が実施したもので、油宇保育園の園児8人が5cm程に育った約500匹の稚魚を放流しました。なぎさ水族館では4年前から中間育成を行っており、稚魚の一部を展示するなどの取り組みも行っています。



▶大きく育つようお願いをこめて放流しました

## 戦艦「陸奥」慰霊祭 平和を後世へ

74年前、伊保田沖で原因不明の爆発で沈没した戦艦「陸奥」の殉難将兵慰霊祭が、沈没した日と同じ6月8日、伊保田にある陸奥記念公園で営まれ、全国から遺族や関係者約90人が参列しました。

慰霊祭は東和陸奥顕彰会の主催で毎年この日に行われているもので、式では顕彰会会長の椎木町長が「平和に対する悲願が後世に受け継がれるよう願う」と追悼の言葉を述べました。また、油田地区の吟詠友の会の皆さんによる詩吟も奉納され、犠牲者の冥福と、平和への祈りを捧げました。

戦艦「陸奥」は昭和18年6月8日、伊保田沖約3キロで原因不明の爆発で沈没。乗組員1474人のうち1121人が犠牲になりました。

▶追悼のことは述べる  
椎木町長

